

図書館・文化会館・総合体育館・再開発ビル

めじる押しの開発事業



▲再開発ビル完成予想図

市民から強い建設要望のある、図書館・文化会館・総合体育館。その建設の具体的スケジュールが視野に入ってきました。今議会で市立総合体育館の発注議案が提出されました。メインアリーナ（主競技場）とサブアリーナ（副競技場）の二面を備える立派なものになります。文化会館建設については、浜田市長が任期中にメドを立てたいと表明しています。懸案の事業が間断なく実施されれば、いよいよ数年後に健康と文化の象徴として待望の施設が完成することとなります。

「図書館」の建設は、基本構想検討委員会が発足し、明年二月をメドに答申することとなっています。一方で市の中心地の開発と人口の増加、市民の集う「ゆとりの空間」の創設などを目指して推進される、再開発ビルへの併設とも絡み、にわかに注目を浴びてきました。

このような状況の中、各事業のそれぞれに市民各層・審議会などの意見があります。そして、これを尊重したいとする市長の方針があります。

市民が今すぐ欲しいと望むこれら施設の建設はどのような優先順位に推進されるのか？

再開発ビル建設・成功への三つの課題

保留床処分（販売）

その一

県住宅供給公社の参画

百五十九戸（約六百三十六人）の都庁型マンションの建設販売。……総合計画での人口目標（平成十七年に六万六百人）への取り組みと企業誘致の推進に伴い、市内での住宅の建設が必要条件となっています。

策（総合計画）として、すでに多くの地方自治体が実践し、成功例も多い事業。公共公益型の再開発ビルには欠くことのできない事業といえます。

その二

市営住宅の併設

二一人戸（百一二人）の建設、廉価で良質の公営住宅の建設。……若者の定住促進

これ以上は待てない施設として市民が強く要望しています。……市長も早期の実現に向け努力すると明言しています。豊かさや、ゆとりの空間として利用する、市の顔としての施設。再開発ビル併設の当初計画では、三・四階に計画されていたものを諸条件の調整の結果、二階への計画に変更されました。

その三

図書館の併設



再開発ビル中庭予想図

総合体育館（前掲）建設の発注請負契約が今議会で提案されたことで、次に建設が予定される大型事業として図書館・文化会館が具体的に近づいてきました。二つの施設は市民がもつとも待ち望んでいる施設で、浜田市長も任期中にメドをつけるとの意志を表明し、行政改革の成果として実現するとしています。

図書館の建設は、基本構想検討委員会の審議と「こめんパワーアップシティー」事業の進行と並行して検討され、建設の可能性が高まってきました。こめん再開発ビルを着工する平成十三年に併設するとすれば、都市計画事業での成立となります。

地方拠点都市構想とその指定を関係者は大いに歓迎しました。その結果、七部にはオフィスパーク、南部には流通業務団地がその雄姿を見せています。さらに市の中心地にふさわしい「にぎわい」と、訪れて「爽しい」と感じる空間を創るとして取り組んだ「こめんパワーアップシティー」構想。

その第一歩目の事業「再開発ビル」の成功は、上のとおり三つの大きな課題を克服しなくてはなりません。

一方、文化会館建設は総合体育館の建設後の事業として、市議会文化会館建設促進特別委員会（吉村雅男委員長）も全面的に支持し、促進しています。平成十一、二年ころからの取り組みとなりそうです。いずれにしても、ここ数年、大規模施設が整備されることとなりますが、課題もあり、市民の支持と選択に左右されます。

限られた財源とはいえ、これ以上市民が待たされることのないように関係者の真摯な選択が望まれます。